

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500780		
法人名	医療法人 橋口整形外科医院		
事業所名	グループホーム 平の庄 (壱番館、貳番館)		
所在地	大村市宮小路1丁目291-3		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果確定日	平成28年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosvoCd=4270500780-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム平の庄は、畑や芝生の庭があります。平屋造りで、施設内もスペースを広く取っておりゆっくりゆったりと過ごして頂けます。玄関から入ると天窗があり差し込む光で明るい雰囲気を作っています。中央は広いスペースがあり窓からの光りが差し込み開放的な明るい雰囲気です。レクリエーションにも力を入れており、月曜日は音楽レクリエーション、水曜日と木曜日は介護予防体操を行っております。また、国道沿いにあり、ご家族の訪問にも便利なところです。「その人らしく、ゆっくり、ゆったり」とを理念にその人らしい生活が送れるように職員一同務めて支援しています。

グループホーム平の庄はハード面において、清潔感のある環境整備を意識しており、入居者にとっても訪問者にとっても心地よい空間作りに努めていた。一方、ソフト面においては、入居者の心身の状況に応じた個別ケアや、入居者や職員に負担の少ない設備の検討、業務内容の総見直しを行う等、その時の入居者の状態を中心としたケアの提供や、業務内容を柔軟に変化させる対応力を持っていた。最後に食事の提供については、基本的に調理師免許を持った職員が対応しており、敷地の畑で収穫された季節の野菜等を使いながら手作りの料理にこだわったり、入居者が好きな食べ物を献立に盛り込む等、「食」を楽しむことの基本的なスタンスを守っていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしくゆっくりゆったりと」玄関に掲示し、入居者様の今までの生活観や人生観を聞き、皆で話し合い理念に沿うことができるように努めている。	入居者の生活観や人生観を大切にして、日々のケアを提供できるよう、職員間で理念を共有している。月に1回のカンファレンスの際に理念の確認を行ったり、家族への説明の際にはパンフレットを用いている。27年度は、特に介護量が中重度の入居者へのケアに重点を置き、理念の中の「ゆっくり」の部分に着目している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内から行事の案内がある。参加できる行事は見学しに行ったり、地域の方々が猫の写真や折り紙で作成された季節の色紙を持ってきてくれたり、畑で採れた野菜を持って来てくれたりして交流がある。	グループホームに勤める職員や、近隣に開業している同一法人の医院とのつながりを中心として、地域との繋がりができており、地域の方が近くの畑で取れた野菜を持ってきてくれたり、おりがみの会の方が様々な作品を持ってきてくれている。今後、地域の方を交えて、小規模でもいいので、サークル活動ができないか検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で参加してくださっている地域住民の方や民生員の方々を通して話をしているが、今のところ活かすところまではできていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の場で報告を行い、意見を聞いた、現状のサービス内容を話したりしているが、サービス向上まではできていない。	運営推進会議議事録により、通常の報告内容や、協議した結果を確認することができた。概ね参加者は固定して、定期的開催されているが、今後、家族や地域代表の方等の意見を基にして、質の向上につなげていくことができるように、方向づけていく方針であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議への参加、グループホーム協議会での最新情報やメールでの連絡などで連携を行っている。	運営推進会議に参加される市の職員は、ほぼ固定化されていて、話しやすい関係が構築されている。今のところ、市に相談するような困難ケース等はなく、担当課へ連絡する内容となると、介護報酬改定の際等に、不明な点を確認することが中心となっていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は9時～21時まで開放している。身体拘束をしないケアを全員で話し合いをしながらケアに努めている。	身体拘束等の不適切なケアについては、教育の有無が大きな分岐点であるという認識のもと、社内研修を開催したり、市のグループホーム協議会の事例検討会に参加したりして、見識を広げている。また、センサーマットを使用するにしても、終日ではなく夜間だけ使用する等、常に利用頻度を意識して、極力代替ケアを提供していくように努めていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、職員同士についても言葉による虐待を含めて気になる言動、行動がある場合はお互いに注意し合うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ1~2回行ったことしかない。今のところ必要と考えられる方がいないため、活用できるような話し合いを設けたことがない。また、これらの制度について利用者、家族等に周知を図るところまでは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約を行う場合は、時間を確保しご家族から入居者様の状況など話を聞きながら、契約書の説明と確認・同意をとりコミュニケーションをとるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議の委員にご家族にも参加してもらったり、面会時に近況状態報告を行い、ご家族の想いを聞き取るなどしている。また、面会時の時だけではなく電話での報告も行っている。	面会に来る家族が比較的多いとのことなので、この機会を利用して近況を報告したり、逆に要望等聞いたりすることはある。要望に関しては、運営上のことというよりは、入居者の日常生活における、身近なことが多い状況であった。敬老会等の大きな行事には、多くの家族が集まるということなので、このような機会を利用して意見を抽出すると、今よりも更に質の向上につながると考えられる。	入居者や家族の意見の抽出を、今よりも充実するような取り組みの一つとして、家族が多く集まるようなホームでの行事の際に、行事のアンケートだけではなく、運営や処遇に関する内容のアンケートを、無記名提出式で実施する等、意見を汲み取りやすい仕組み作りを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回第2土曜日にカンファレンスを行い、情報共有や職員の意見等を聞く場を設けて話を聞くように努めている。また年に1回施設長または理事長との面接の場も作るようにしている。	施設長がトップとして参加しているカンファレンスを、毎月1回開催している。内容としては入居者の情報共有、社内研修や行事の報告、モニタリング、アセスメント等、濃厚なメニューで実施している。この会議の中で、職員から入居者の身体レベルに関して報告があった際に、車椅子やベッドの種類を変更する等、状況に応じて意見を反映させている。また、年に1回、職員面接の場を設け、働きやすい職場環境を整えるように工夫していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況については、貢献していただいた分給与や賞与、処遇改善加算に反映できるよう努めたり、希望休みを聞き入れて考慮し働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回第2土曜日にカンファレンス時に内部研修に取り組み、社外研修についても受講の話をして参加できるように努めている。キャリアアップやキャリア形成促進助成金なども活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、職員には相互実習に積極的に参加していただき、同業者との交流する機会や各駅停車(新人研修)のネットワークに参加し、同業者とのかかわりを持っていただくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの相談者は、ほとんどがご家族だが、入居前にご本人が見学できる場合はできるだけ見ていただいたり、入居が確定するとご本人との面会を通して話を聞き把握したり、めなじみの関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時より今の思いや困っていることなどを受け止め要望に耳を傾けるようにして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族の実情や要望をもとにその時点で何が必要かを見極め、自分たちで抱え込まず、必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気持ちに寄り添いながら接し、ともに笑い合えるような関係性を築けるようにしている。一緒に楽しく過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒にご本人を支えていく。ということ大切にしながら、利用者様の状態や近況報告をし、また行事など一緒に楽しく過ごしていただく場やご家族で過ごしやすい雰囲気を作ることに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問や連絡が出来るよう支援しており、自宅への外出や外泊や馴染みの美容室などへの支援も行っている。	馴染みの関係継続のために、まずは家族からの情報収集を心掛けている。以前から利用していた美容師が、ホームに来てくれたり、入所前にかかりつけだった医師が、往診に来たりしている。基本的には今までのつながりを大切にもらうため、特に制限は設けていない。また、入居者が行きたいところがあれば、職員だけではなく、家族にも協力を仰ぎ、入居者の意欲を尊重していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、食卓での配置など十分に気を配りトラブル防止に努め、スタッフが間に入るなど孤立する利用者がないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば、お見舞いなど訪問を行い必要に応じてフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や今後の意向に対して本人、家族より聞き取りを行い記録するようにしている。本人よりの聞き取りが困難である場合、生活の中で会話や表情からできるだけ想いをくみ取り検討している。	入居時に利用者の生活歴(幼児期～老年期)と合わせて”大切にしていること”の様式に好きな食べ物や色、したいことなど18項目について家族に記入してもらい希望や意向を汲み取る参考となっている。日常の生活の中で本人の意向の聞き取りが困難な場合には、しぐさや発する言葉などを家族と相談し把握するよう努めている。聞き取った内容については、月一回のカンファレンスにおいて全職員で共有し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく暮らしていくとを支援していくために、入居に至るまでの経緯を把握し安心感を持っていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で本人の状況や、スタッフの申し送りなどを参考にして総合的に把握をし本人のできる力やわかる力を発見していくことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりより生活をしていただくためにみんなでケアのあり方について、話し合うように努めている。	介護計画は、各ユニットの管理者が作成していたが、今後より良い個別ケアを充実させるために職員がそれぞれの入居者の担当者として原案を練り、カンファレンスにおいて報告、話し合いを行い、職員全体で作成する方向で取り組みの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記入しているが、その記録を根拠にしながら、介護計画の見直しに活かすところまではできていない。申し送りでのやり取りで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズにに応じて多様な支援の方法を備えていけるようにご家族と相談しながら、柔軟な支援を臨機応変に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族とご相談しながら、行きつけの美容院や今までのかかりつけ医、なじみのお店への利用を積極的に提案して外出し楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医やご本人及びご家族等の希望を聞き決めていただいている。希望がない場合は、施設の近くの医院を紹介している。主治医へ情報提供を行い適切な医療が受けられるように努めている。	かかりつけ医は本人や家族の希望により決定しているが、相談に応じ往診対応の病院や近くの病院を紹介する場合もある。通院は家族が同行し、直接主治医からの説明を受けることが出来ている。家族が付き添えない場合には職員が対応し、通院介助を行っている。母体が病院であることから転倒等のケガの対応も含め本人、家族には安心できる環境にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報をfaxを使って報告し状態把握をしてもらっている。それを元に週に1回訪問し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をして安心して治療ができるように努めている。また、ご家族同意のもと情報交換や相談ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に方針を説明し、早い段階から話をして共有しあえるように努めている。	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を定め、入居時に本人、家族に説明を行い、看取りについての対応の希望を聞き、同意を得ている。終末期には再度、家族に説明し意思確認を行っている。職員は新人研修において看取りに関する研修を行うことで対応に備えている。母体である病院の医師、看護師との協力体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時の対応もすぐ行動できるようにしている。スタッフは、管理者、看護師へ報告し、主治医へ連絡、指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回の消防訓練時に勉強会の実施や入居者・地域住民、スタッフ、消防職員、地域の消防軍団の方に参加していただき訓練を行うように取り組んでいる。想定は夜間帯と日勤帯の2パターンで行っている。また、消防のチェック表を作成し点検している。	火災における避難訓練は、昼・夜を想定して行っている。火災時は近隣の住民に自動で連絡がいくようになっており、消防団にも施設見学を行って協力体制を求めている。また、地域の避難場所として事業所を開放することもできる。	風水害マニュアル、地震対応マニュアルは整備されているが、それらの避難訓練、救出訓練が行われていない。マニュアルの整備に留まらず、地震、水害等の対応の備えとして訓練を検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの前に声をかける。部屋に入るときは一言声掛けをうこなう。などのプライバシーの確保を意識して取り組むように心掛けている。	入浴時には入居者の肌の露出に気を配り、トイレ誘導の際は周りにわからないように配慮している。人生の先輩であることを念頭に置き入居者には“さん”付けで呼んでいる。親しくとも言葉遣いが馴れ馴れしくならないように心がけているが、気が付いた時には職員間で注意し合い、意識の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかの選択肢を用意するなどご本人に選択できる機会をつくるように心掛けている。また、ご家族に今までの好きな色や食べ物などを聞くなど情報収集にも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日のスケジュールは施設として設定しているが、ご家族の面会や友人の面会時についてはお茶を用意するなど一緒にくつろいでいただけるような雰囲気をつくるように心掛け、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を着ていただいたり、馴染みの美容室へ出かけるなどおしゃれができるように支援している。訪問美容の利用も月に1回ある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を取り会話を楽しむようにしている。個々にあった食事形態に心掛け、季節に合った旬のものを提供したり、好きなものを献立にいれたり、片付けや野菜の皮むきなど積極的に一緒に行うように取り組んでいる。	調理担当の職員が献立表を作成し、入居者の状況に応じてミキサー食の提供や、嚥下が困難な入居者にはゼリー状のもので水分補給を行うなどの対応を行っている。旬の物を使った手作りの温かい食事を提供し食卓には花を飾り、入居者も下ごしらえの皮むきや食器拭きなど行い食事を楽しむ工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分を日誌や記録に記載したり、それぞれにあった食事量や形態で提供し、一日を通して摂取できているかどうか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人のできる力を活かしながら皆さんの状態に合わせて口腔ケア用の歯ブラシを使い行っている。義歯なども洗浄剤を利用し清潔を保つように心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツを使用している方でも日中は布のパンツやリハビリパンツの使用ができる方は積極的に自立にむけた支援を心掛けている。日中はトイレへの誘導を行うなど行っている。	トイレでの排泄を行えるよう入居者の排泄リズムを把握し、夜間はおむつの入居者も日中はリハビリパンツに替えタイミングを見てトイレ誘導を行っている。失禁した場合には十分にプライバシーに配慮し他の人にわからないようトイレ内で着替えたり、シャワーで清潔を保つよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、朝オリゴ糖入りの牛乳を提供したり、水分摂取も心掛けて声をかけ摂取してもらうようにし、野菜中心の食事提供を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度化に伴いシャワー浴のみになってきているため、浴槽でゆっくり入浴していただけるように午前から午後からの入浴をしていただけるようにし、弐番館のスタッフと共同で行うことで人員の確保をし、ゆっくり楽しんでいただけるように支援している。	現在、重度でシャワー浴しかできない入居者に湯船に浸かってもらえるような、かつすべての入居者にとっても利用価値のある個浴用お風呂のリフォームを検討している。入居者は週3回入浴を行っており、季節に応じてゆず湯なども楽しめる工夫をしている。入浴介助を2ユニット共同で行うことで人員にゆとりが出来、ゆっくり入浴を楽しむことが出来ている。入浴拒否をされる場合には、タイミングをはかったり、誘い方を変えてみるなどの取り組みを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の自然なリズムが生まれるように、日中は音楽レクリエーションや予防体操など楽しんでいただける場を提供し、車イスの方はご本人の状態に合わせて積極的にリクライニングの車いすなどに変更したりゆっくり過ごしていただけるように環境にも心掛けて支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬を防ぐため、薬局とのコミュニケーションを取り、1包化できるものはしてもらい、日付や名前も印字うなどしてもらい、1週間ごとの服薬管理箱を使用している。日常の変化など主治医へ情報提供し受診・往診記録の記入を行い職員への周知徹底を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦としてお世話をしていた時のように洗濯物のたたみや片付け・掃除などは、スタッフでやっしまわすご本人のできるものを常に声をかけて行っていただくことで自分の役割や楽しみをもっていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好きなものを買いに一緒に行くなど声をかけて出かけるなどしている。ご家族との外食など楽しみにされているため積極にご家族に声をかけ出かけやすいように努めている。	お天気の良い日は庭に出て日光浴を行ったり、個別の対応で近くのお店に買い物に出かけたりしている。家族の協力で外食に出かけたり美容室に行くなどの外出支援を行っている。ドライブを兼ね皆でお買い物やお花見なども楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と買い物へ出かけるときは財布を持っていただき、支払いなどご自分でしていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が電話をかけてきやすいように声掛けしたり雰囲気をつくるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にし、居室の前には季節に合わせた手作りのものを飾ったり、食卓や共有スペースには生け花やお雛様や節句、クリスマスツリーなど飾るようにしている。温度や湿度計を毎日確認するようにし過ごしやすい空間を心掛けている。	ユニットとユニットの間に広い共有の空間が設けられ、入居者が思い思いの場所でくつろぐことが出来ている。畳のスペースには生け花が生けられ季節感を味わえるように雛人形も飾られている。毎日2回温度、湿度を記録し、空気清浄機を設置して過ごしやすい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースや食卓などを利用してテレビや雑談、新聞が読める環境がある。共有スペースには畳の空間や広間には安楽椅子やソファなどくつろげていただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に普段使用している馴染みのある物を持って来ていただくようにご家族と相談している。環境の変化を少しでも感じられないよう安心感を持っていただくように配慮している。	入居者にとって馴染みのある空間で過ごせるよう、安全性を考慮しながら仏壇やタンスなど、なるべく希望の物の持ち込みを受け入れている。各部屋はリビングを囲むように配置されており、職員の見守りが行き届き、安心して過ごせる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の部屋の前に大きな表札を下げご自分のお部屋であると安心していただけるようにしている。また、トイレの表示を絵にしたり、立ち上がりがスムーズにできるようにベッドにバーを付けたり、持ちやすいように滑らないテープなどを使って工夫している。		